

ミナミキイロアザミウマ情報第1号

令和元年12月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

キュウリで発生が多い！ナスでも注意しましょう！

1 発生状況

- (1) 11月下旬に実施した巡回調査の結果、キュウリにおけるミナミキイロアザミウマ（図）の寄生葉率が2.13%（平年0.36%、前年0.25%）、発生ほ場率が50.0%（平年13.8%、前年12.5%）で、ともに過去10年と比較して最も高くなりました。
ナスにおいては、寄生葉率が5.75%（平年7.54%、前年13.90%）で平年並でした。
- (2) 令和元年11月28日発表の名古屋地方気象台1か月予報では、向こう1か月の気温は高い確率60%と予想されており、本種の増加に好適な条件が続くと思われます。現在発生が少ないほ場でも今後の発生、増加に注意が必要です。



図 成虫

2 防除対策

- (1) 青色の粘着板などを利用して発生状況をよく観察し、早期発見に努めましょう。
- (2) 本種の発生を認めたら、表を参考にして、密度の低いうちに防除しましょう。
- (3) 本種は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統（表のIRACコード参照）の薬剤の連用は避けましょう。
- (4) 天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して薬剤を選定しましょう。

表 主な防除薬剤

作物名	適用害虫名	薬剤名	成分	使用時期	使用回数	IRAC コード
きゅうり	アザミウマ類	ベネビアOD	シアントラニリブ ロール	収穫前日まで	3回以内	28
		アグリメック	アバメクチン	収穫前日まで	2回以内	6
	ミナミキイロ アザミウマ	コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫前日まで	3回以内	13
		ベストガード水溶剤	ニテンピラム	収穫前日まで	3回以内	4A
なす	アザミウマ類	ファインセーブ フロアブル	フロメトキン	収穫前日まで	3回以内	未記載
		モベントフロアブル	スピロテトラマト	収穫前日まで	3回以内※	23
		アフーム乳剤	エマメクチン安息 香酸塩	収穫前日まで	2回以内	6
		グレーシア乳剤	フルキサメタミド	収穫前日まで	2回以内	30
	ミナミキイロ アザミウマ	コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫前日まで	4回以内	13

※モベントフロアブルは、灌漑での登録もあるため、総使用回数に注意する。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

3 その他

キュウリにおいては、本種が媒介するメロン黄化えそウイルス（MYSV）による黄化えそ病の被害が懸念されます。本種の密度低下を徹底するとともに、発病株は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。